55 ヒモイカリナマコツマミガイ (ハナゴウナ科)

Hypermastus lacteus

兵庫県ランク:A

環境省ランク: VU

種の概要

相模湾、伊勢湾、瀬戸内海など、関東以西の内湾に分布する。 内湾奥部や河口の干潟の干潮時に露出する礫や貝殻混じりの 砂泥中に浅く潜行して生活する棘皮動物のヒモイカリナマコ(その他無脊椎動物Bランク)に内部寄生する。寄生数は宿主1個体 あたり普通1~2個体が寄生しており、ときに外部に寄生すること がある(移動中?)。 殻長5mmほどの紡錘形をし、殻頂部は乳頭 状に突出する。 殻表面は光沢があり、彫刻はない。 殻はほぼ透 明で、生時は黄色の軟体や内臓が透けて見える。

主要な選定理由

人為性			生息環境 の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			0	0			0

県内分布

高砂市、たつの市、赤穂市、洲本市、淡路市

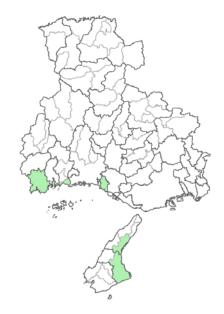
県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。加古川以西の河口干潟や内湾において、ヒモイカリナマコは決して珍しくなく、本種の生息地では概ねヒモイカリナマツマミガイが確認できる。淡路島では大阪湾側の中部と北部で確認されており、寄生数は宿主1個体あたり幼貝を含め最大23個体を記録できた。6~7月頃に成貝が多く見られ、この頃が繁殖期と考えられる。

保護上の留意点

多様な底床構造が存在する内湾奥部や河口 干潟において、やや海水の影響の強い潮通し のよい場所に生息する。宿主が砂泥底の礫な どの下に潜行する傾向があるので、砂泥底に 加え岩礫や貝殻の適度な混在が必要である。 垂直護岸によって急激に深場としないこと、干 潮時に緩傾斜の干潟を維持することで、潮位 や流程による底床の変化を存続させること。







【執筆者】 増田修